私費で故郷に美術館

ダイエー顧問の大川栄二さん夫妻

桐生

絵画約900点を寄贈

3年後開館に市も全面支援「文化的土壌育てたい」

桐生市で、3年後を目途に美術館建設が計画されている。同市出身で有数の絵画蒐（しゅう）集家として知られるダイエー顧問、大川栄二さん（62）＝東京都世田谷区上馬４丁目＝夫妻が私費を投じて建設。自ら所蔵する約1000点の絵画のうち９割の寄贈を予定しており、開館後は財団法人で運営する。大川さんは「桐生のすばらしい文化的土壌を育てるため、内容的にも充実した美術館にしたい」と話しており、同市も全面的支援を約束（萩原尚三教育長の話）、期待を膨らませている。

大川栄二さん

大川さんは岡市本町三丁目の出身。旧制桐生尋常小、同桐生二高等学校、桐生高等工業学校（現群馬大学工学部）を卒業。戦後、農林省林業試験所、三井物産を経て、大手スーパー・ダイエー副社長となり、現在同社顧問。

戦後間もなく「人生の糧として」絵画の収集を開始。一緒に生活の場に飾ってあきない絵を集めてきたという自らの蒐集眼で集めた作品は現在約千点。この中には近代美術を確立したといわれる具象画家、松本竣介の「街」「都会」「運河風景」をはじめ、萬鉄五郎、野田英夫のほか、ピカソの「ジプシー」やモジリアーニ、ルオーの作品もある。また、桐生在住で先月末に死去した抽象画家、オノサト・トシノブの油絵、版画も六十点ほど所蔵。現在約三百点ほどは全国公立美術館の依頼で貸し出し展示中という。

桐生市内への美術館建設構想は、十年ほど前からで「桐生に住む自然を愛する人情や絹をつくる職人気質がある。この文化的土壌を育てたい」と、準備を進めてきた。

すでに美術館として同市小曽根町の水道山の丘陵地帯にある西友社員寮の跡地約二千平方㍍を購入、現在の施設改修するプランを進めている。

大川さんは「その後の運営など、アドバイスをいただければ」と、期待を寄せている。

開館時期について大川さんは「桐生市小曽根町の建設予定地を視察